

家庭菜園相談室

今月のテーマ

大人気のブルーベリーを育てよう

ブルーベリーは、育てやすく、場所も取らず、手軽に楽しめる小果樹です。ブルーベリーブームの影響で、いろいろな品種の苗木が入手しやすくなってきています。生食のほか、ジャムやホームメイドのスイーツなどにも使えます。

図1 作型目安

	1月	2月	3月	4月	5月	6月	7月	8月	9月	10月	11月	12月
開花期				■								
収穫期						■	■	■	■			
植え付け	■	■	■								■	■
肥料(鉢植え)			■	■	■			■				
肥料(庭植え)			■	■	■			■				
剪定	■	■										

●栽培のポイント

- 栽培されるブルーベリーの系統を大別すると、「ハイブッシュブルーベリー」と「ラビットアイブルーベリー」に分かれます。ハイブッシュ系の品種は、耐寒性があり、本来は暑さに弱いとされています。一方ラビットアイ系の品種は耐暑性があり、寒さに弱い傾向があります。この地方ではラビットアイ系が良いでしょう。
- 受粉させるためには、必ず2本以上の木が必要です。「ブルーベリーの実がならないです」という相談が多いですが、「1本だけ植えた」という場合と「同じ品種を2本植えた」という場合がほとんどです。ラビットアイを植え付けるなら、ラビットアイ系統の中から別品種を2本以上選択しましょう。
- 日光を好むので、庭植えの植付け場所、鉢植えの置き場所とも日当たりの良好な場所を選びましょう。
- 植付け時の土壌の適正pH(酸度)に注意しましょう。
用土は、水はけと水持ちのバランスが良い酸性用土を使用します。pHが4.5程度になるよう酸度未調整ピートモスを多めに使用するとよく育ちます。ピートモスは、水となじみにくいので、事前に水とよく混ぜておくとういでしょう。庭植えでは、掘り上げた土、吸水させたピートモス、赤玉土小粒を3:5:2の割合でよく混合して使用します。植付ける際は、ポリポットから苗を抜き、根鉢をしっかりと崩します。次に、予め吸水させておいたピートモスで、根を包むようにして植穴に入れ、先に混合しておいた土を埋め戻します。植え付け後は、しっかりとした支柱を添えて挿し、水をたっぷりを与えましょう。
- 水やり ブルーベリーは、乾燥に弱く、たくさん吸水する植物です。鉢植えなら表面の土が乾いたらたっぷり水やりをします。庭植えでは、夏の乾燥した日が続くようなら、毎日水やりをするくらいがちょうどよいです。
- 肥料 ブルーベリーの成長に必要な成分は、窒素・リン酸・カリの3つです。それぞれの成分を多く含んだ緩効性肥料(有機8-8-8)を3月に元肥として1株当たり100gほど施してください。追肥は5月、8月それぞれ1株当たり30~50gほど施します。また、収穫後にお礼肥として同量与えると良いでしょう。
- 剪定 大きくなったブルーベリーは、剪定が必要です。剪定は、1~2月が適期です。「木を大きくする」「たくさん果実を实らせる」ためと、成長段階によって目的が違います。植えてから1~2年目は、花芽がついている先を切って剪定し、木が弱くなるのを防ぎます。3年目以降は、内向き・伸びすぎた枝・根元から出ている枝を中心に切り落とします。
- 収穫 ブルーベリーは、6~9月上旬が収穫時期です。1粒ごとに果実全体が青紫色に変化してから4~7日後が目安です。軽くひねりながら摘み取りましょう。収穫後に甘みが増すこと(追熟)はないので、できるだけ早く食べてください。加工用としても、ジャムやデザートソース、ジュース、果実酒などバラエティに富んでいます。
- 病害虫 比較的強いほうですが、ヒヨドリなどの鳥害が多いところでは防鳥ネットが必要になります。

●いろいろな品種

- ◎ハイブッシュ系「チャンドラ」「ブルーレイ」
- ◎ラビットアイ系「クライマックス」「ブルーシャワー」



家庭菜園に関する相談は、TAC(タック)、支店営農経済担当者までご連絡ください。